



子どもの森づくり通信

発行：NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク

J P子どもの森づくり運動
参加園月例会報
(2022年7月号)

〒146-0082 東京都大田区池上1-3-4 tel:03-5755-3213 fax:03-5755-3081
https://www.kodomono-mori.net mailto:info@kodomono-mori.net

「J P子どもの森づくり運動」とご縁をもたせていただいた方々に、活動情報をお送りさせていただいております。ご意見など賜れば幸いです。

<今月の1枚>



早々と梅雨明けとなったにもかかわらず、豪雨災害等も発生する不順な天候が続きます。

新型コロナウイルスの感染状況も、また、拡大しております。

参加園の皆様には、感染症対応に加えて災害対応にも配慮しなければならない
変わらぬ厳しい保育の日々をお過ごしのことと思われまます。

体調管理に十分ご留意いただき、乗り切っていただけますようお願い申し上げます。

写真は、岩手県大槌町に届けられた東北のどんぐりの苗木です。

(目次)

1. 「東北復興グリーンウェイブ」2022年度植樹会レポート2
2. 「東北復興グリーンウェイブ」広島県「保育所みのり祇園」東北のどんぐりを見送る活動レポート
3. J P子どもの森づくり運動「園庭緑化運動」2022年度オンライン講座のご案内
4. リレーエッセイ (2022年7月号)
5. お知らせ：「東北復興グリーンウェイブ」の活動が、「JP CAST (ジェイピーキャスト)」で紹介されました。

■「J P子どもの森づくり運動」とは

今、子どもたちは、高度な情報化社会の中でバーチャルな環境に取り囲まれ、本物の自然体験活動から遠ざけられています。しかしながら、子どもたちは、変化に富んだ自然体験活動の中でこそ、五感を通じて豊かな感性や健全な環境意識、そして子ども本来の生きる力を育みます。「J P子どもの森づくり運動」は、NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク（「子森ネット」）が「日本郵政グループ」との協働体制で、全国の保育園・幼稚園・こども園を拠点に、一貫した森づくり活動を通じて幼児期の子どもたちに自然体験活動と環境学習の場を提供しようという全国運動です。

■「J P子どもの森づくり運動」運営体制

- ・運営：NPO法人 子どもの森づくり推進ネットワーク（「子森ネット」）
- ・特別協賛：日本郵政グループ
- ・主な後援/協力/連携団体

(公社)全国私立保育連盟

NPO法人 富良野自然塾

(公社)大谷保育協会

(公社)こども環境学会

保育環境研究所ギビングツリー

国際校庭園庭連合日本支部

(公社)国土緑化推進機構

(一社)日本森林インストラクター協会



1. 「東北復興グリーンウェイ」2022年度植樹会レポート2

2022年6月19日(日)に、岩手県大槌町において、「東北復興グリーンウェイ」における、苗畑から森へのどんぐりの苗木の植え替え活動が実施されました。大槌町の「つつみこども園」さんのご紹介で、大槌町でも、苗畑で育ったどんぐりの苗木を植え替え、継続的に育てていくフィールドをご提供いただけるご協力の方が現れ、5月に開催された子どもたちによる苗畑への植樹につづき、大人たちによる苗畑からの移植活動が行なわれました。

ご協力者によると、大槌町でも、震災復興のため地元の杉材の需要が高まり、積極的に森の樹木の伐採が行なわれ、その結果、森が荒廃し、熊や鹿などが餌を求めて住宅地に現れることが多くなっているとのこと。「東北復興グリーンウェイ」の活動を通じて、どんぐりの苗木を植え、やがて、森のいきものたちの餌となるどんぐりの森として育ててくれることを願っておられるとのことでした。

当日は、これまで「東北復興グリーンウェイ」に携わってこられた宮古市、山田町、大槌町の保育園（所）とこども園の職員、保護者、協力者の方21名が集まり、山田町と大槌町の苗畑で大きく育った東北のどんぐりの苗木、約100本が大槌町の森に植え替えられました。大槌町のどんぐりの森は、「つつみこども園」さんによって「吉里吉里どんぐり山」と命名されました。今年大槌町の苗畑に子どもたちが植えた苗木も、3年目には、大槌町の「鎮魂の森」と共に「どんぐり山」に植え替えられます。



苗木の植え替え活動は、苗木を重機によって掘り起こす作業から始まりました。



掘り起こされた苗木は、トラックで森に運ばれます。



大槌町の森でも、あらかじめ重機で植える場所を掘っていただきました。



皆様のご協力のおかげで、作業ははかどりました。



植樹地につながる道を「吉里吉里どんぐりロード」と呼ぶことになったそうです。



早速、鹿が現れ、様子を伺っていました。対策を考えないといけませんね。

2. 「東北復興グリーンウェイ」広島県「保育所みのり祇園」東北のどんぐりを見送る活動レポート

広島県の「保育所みのり祇園」の荒木先生から東北のどんぐりを見送る活動について下記のレポートが届きましたのでご紹介します。一生懸命、どんぐりを育てていただいている様子が伝わる素晴らしいレポートです。詳細は、ホームページをご覧ください。

近年、気候変動（特に夏の気温上昇）のためかどんぐりの苗が育たなかったため、平成30年度5月以降、お見送り会ができませんでした。夏の暑さから守るため、場所を変えたり注意深く水やりをして、大切に大切に育てました。20本あったどんぐりの苗木のうち、今年ようやく2本ですが元気に育ったので、お見送りをすることができました。どんぐりの苗とみんなの気持ちを岩手県の「つつみこども園」に届けてくれる郵便局の方々と郵便局マスコットぼすくまと一緒に盛大にお見送り会ができてうれしかったです。

「つつみこども園」のみなさん、待っていてください。そして、バトンタッチ☆よろしくお願いいたします。 By: 園長 荒木ひとみ

*日 時：2022年5月12日（木） *会 場：自園 *参加園児：3・4・5歳 36名
*日本郵政グループ参加者：安佐南郵便局 拝藤 隆局長 中祇園郵便局 山本美奈子局長 他、計6名



安佐南郵便局と中祇園郵便局の局長さんに
どんぐりの苗木が手渡されました。



「ぼすくま」も参加して、苗木が元気に育つことを願って
「♪どんぐりえがおダンス」を踊りました。

3. J P子どもの森づくり運動「園庭緑化運動」2022年度オンライン講座のご案内

J P子どもの森づくり運動では、「国際校庭園庭連合日本支部」との共催で、多様な園庭緑化・自然化、さらに地域資源の活用等を学ぶオンライン講座を6月から12月の期間、毎月1回、計4回実施します。（6月講座は終了しました。）園庭をテーマにすぐれた研究や活動を実践されておられる素晴らしい講師の方々にご出講いただけることになりました。受講費は無料ですが受講者数が限られております。（先着30名 / 定員になり次第締切ります。）全講座、定員間近となっておりますので、ご希望の方は、急ぎお申し込み下さい。受講申し込みは、ホームページからお申込みいただけます。

【8月講座】乳幼児期における自然・植物環境の重要性～園庭植栽のあり方について～

*日 時：2022年8月25日(木)14:00～15:30
*講 師：むぎの穂保育園 園長 出原 大（いずはら だい）先生



【10月講座】まちを愛でてまちを楽しむ～まち保育のススメ～

*日 時：2022年10月25日(火)14:00～15:30
*講 師：横浜市立大学大学院 都市社会文化研究科
都市社会文化専攻 教授 三輪 律江（みわ のりえ）先生



【12月講座】園児と自然の生きものが出会う空間の作り方・使い方

*日 時：2022年12月20日(火)14:00～15:30
*講 師：（公財）日本生態系協会 教育研究センター センター長 田邊 龍太（たなべ りょうた）氏



4. リレーエッセイ (2022年7月号)

幼児(少)期の環境教育をテーマに、北海道教育大学 教育学部岩見沢校 アウトドア・ライフコース 教授 能條 歩 (あゆむ) 先生によるリレーエッセイ4回目の連載です。今月号は、「自然の直接体験」の意義についてです。

自然体験への期待～感性をときすませ～

北海道教育大学 教育学部岩見沢校 アウトドア・ライフコース 教授 能條 歩



「大丈夫かな?」と思うような人がいても声をかけなかったり、ついつい食品ロスを出してしまったり。誰もそういう経験をお持ちのことだと思います。「こうすべきかな」と思っても、人は必ずしも論理や倫理だけで行動するわけではありませんよね。

環境に対する「意識」と「行動」の間にもけっこう大きな壁があり、その壁を越えるには何か大きな“アイテム”が必要だと考えられています。この“アイテム”がなんなのかまだ十分には明らかになっていませんが、私は“自分ごととして考えられるかどうか(=実感がこもるかどうか)”ということではないかと思っています。“自分ごととして考える”というのは、「自分にも関係あること」や「自分にも責任の一端やできることがあること」などに気づくことです。「つらそうだな」と単に理解・共感するだけでなく、そのつらさを自分ごとと感じられるところまでいかないと行動は起こらないのではないのでしょうか。

行動には「理解・共感する→実感がこもる→動機を持つ→行動する」というながれがあると考えられますので、まずは対象に意識を向け、“コミュニケーション”をとることで理解や共感を得ることが大切です。持続可能な未来を考えるために、私たちには自然が置かれている状況を「理解・共感」するための“コミュニケーション”が必要ですが、自然の方から私たちに“コミュニケーション”しにきてくれることはありません。したがって、私たちの方から積極的に自分の感覚(視・聴・嗅・触・味覚)を使った“コミュニケーション”(=自然の直接体験)を意識的に行なっていく必要があります。自分の感覚を使った自然の直接体験は、回を重ねるごとに自分の感性をときすませ、得られた理解や共感への実感も深めていきます。するとやがてはときすまされた感性によって今まで気づかなかったことに気づけるようになり、自分の世界が大きく広がっていくことでしょう。



このように、自然の直接体験により感性をときすませることは、環境行動につながる“アイテム”を獲得するという、持続可能な未来を作るためのとても重要なことなのです。

【筆者近況】

北海道にもいよいよ夏がやってきました。でも、この程度で暑いといっているのは本州の方には申し訳ないですが、それにしても、本州各地の猛暑のニュースを聞いたときに、熱中症対策で外遊びを減らざるを得なくなって、子どもたちの自然体験のメインシーズンから夏が消えてしまうのではないかと心配になります。みなさまもご自愛ください。



5. お知らせ:「東北復興グリーンウェイブ」の活動が、「JP CAST (ジェイピーキャスト)」で紹介されました。

JP子どもの森づくり運動をご支援いただいている日本郵政グループのWebメディア「JP CAST (ジェイピーキャスト)」で、「東北復興グリーンウェイブ」における大槌町の植樹会の活動をご紹介いただきました。下記アドレスでご覧いただけます。

⇒<https://www.jpcast.japanpost.jp/2022/07/277.html>

右のQRコードからもご覧いただけます。是非、ご覧下さい。

郵便局の魅力を発信するメディア

JP CAST

